ほんまち

１２月　　園だより
令和　２年　１１月　３０日
渋 谷 区 立 本 町 幼 稚 園 発 行
https://shibuya.schoolweb.ne.jp/hon-yo

うれしい時も　かなしい時も

園長　森山　未来

年の瀬１２月を迎えました。１年前、「コロナ」を知らずに過ごしていた頃が、遠い昔の出来事のように感じられます。昨年の１２月の手帳をめくってみると、忙しいけれども、様々な師走の予定が綴られていて、別世界のことのようです。あの頃の日常とは何だったのか、自分の中にすっかり取り込まれた with コロナの生活とのギャップに、２０２０年が激動の一年であったことを考えずにはいられません。

変化することを余儀なくされた年でしたが、幼稚園で生活する子供たちの育ちは、むしろ確実なものになっていると感じます。このような姿は、幼稚園だけで得られるものではありません。保護者の皆様がご家庭で生活の土台となる部分を担い、ご協力くださったことに、改めて感謝申し上げます。

以下は、本園の子供たちの生活のひとコマです。11 月、寒い朝の出来事。ご紹介します。

幼稚園門で子供たちを迎える朝のこと。４歳児もも組の A ちゃんは、いつも元気に挨拶をすると、急いで階段を上がって玄関へ駆け込んでいきます。しかし、この日は、B ちゃんの姿がないことに気付き、私に「B ちゃんは来る？」と心配そうに聞いてきました。「B ちゃんはお熱がまだ下がらないからお休みなんだって」と伝えると、「会いたかったぁ…来ると思ったぁ…（ウェ～ン）」と泣き始めました。実は、B ちゃんは風邪を引いてしまって、３日ほどお休みをしていました。今日こそ幼稚園に来られるかな？会えるかな？と、A ちゃんは楽しみにしていたのでしょう。しくしくと泣く A ちゃんの様子をあとから登園してきたもも組の C ちゃん、D ちゃんが、心配そうに見つめています。どうするかな？と見守っていると、C ちゃん、D ちゃんは、そぉっと A ちゃんの手を両側からつないで、静かに寄り添って階段を上がり、玄関まで連れていってくれました。その場に居合わせた５歳児すみれ組の E ちゃんも、状況を察したのか、もも組の３人の動きを後ろからゆっくり見守りながら歩調を合わせてくれていました。

小さなコミュニティの中で、子供たち同士の心がつながり合い、育ち合っていることが伝わってきて、大変うれしく思いました。心の成長には、実際に多様な感情を味わうことが大切ですし、自分も同じようにしてみようと思える温かなロールモデルが身近にあることも大切です。子供たちは、心が＋プラスにも、－マイナスにも揺さぶられる経験を重ねて、周りにいる大人や友達の助けを借りながら、自分で気持ちを収められるようになっていきます。うまくいく日もあれば、すれ違う日もあることを子供たちなりに知るのでしょう。そして、うれしい時も、かなしい時も、寄り添ってくれる誰かの存在に、ほっとする気持ちを味わい、自分事として他者に関わり、自分から働き掛けてみるようになっていきます。

今まさに、大人の私たちも、コロナ禍にあって思い通りにならない様々な状況に直面し、それぞれの心は大きく揺さぶられているのではないかと想像します。幼稚園の送り迎えで誰かと少しお話しをすることで、緊張感が解けた方もおられたのではないでしょうか。ぜひ、どんな時も一人ではないことを覚えていてほしいと思います。

改めて、２０２０年は、激動の一年でした。しかし、大切なことが何であるのか、ささやかな幼稚園生活の中から、子供たちに教えられる一年でもありました。この歩みを忘れずに心に留め、一年を締めくくりたいと思います。